

群馬県のニホンジカ管理と農林業被害対策



群馬県鳥獣被害対策支援センター

3分動画 <https://www.youtube.com/watch?v=pccPIJt5yIs>

軋轢を生むニホンジカ

ニホンジカ
(Cervus nippon)



低密度であれば
問題なし！！

近年の高密度化・広域化で問題発生

市街地出没



農作物被害



森林生態系被害



群馬県の鳥獣被害対策の推進体制

鳥獣被害対策本部

- ・鳥獣被害対策の情報共有
- ・野生鳥獣被害対策の方針決定
- ・部局を横断した取組の推進

【対策本部の体制】 年1回開催

本部長：副知事
副本部長：鳥獣対策担当参事
本部員：農政部長、関係部長

【推進会議の体制】 年2回開催

会長：鳥獣対策担当参事
副会長：林政課長、技術支援課長
構成員：自然環境課長、蚕糸園芸課長、ほか

（事務局：鳥獣被害対策支援センター）

地域鳥獣被害推進会議

- ・農業事務所毎に設置
- ・取組方針の情報を共有
- ・連携して被害対策を推進

【地域対策推進会議の体制】

会長：農業事務所長
副会長：環境森林事務所長
県：農業事務所、環境森林事務所、土木事務所、保健福祉事務所

（検討事項により参加）
市町村、森林管理署、関係団体（J A、猟友会、森林組合）、警察署等

群馬県の鳥獣被害対策の推進体制

「捕る」

市町村と連携した計画的な捕獲、ICTを活用した捕獲圧の強化
・生息調査に基づく計画的な捕獲推進
・指定管理鳥獣捕獲等事業
・林業者等の捕獲支援、市町村の捕獲取組支援、担い手の捕獲技術強化など



「守る」

地域主体・地域ぐるみの被害対策を総合的に支援
・鳥獣害に強い集落づくり支援
・鳥獣被害防止総合対策交付金
・農林地等の野生鳥獣侵入防止対策
・河川養豚場周辺の緩衝帯整備など



「知る」

技術開発等による効果的な被害対策、体系的な人材育成
・被害対策人材育成研修
・広域捕獲の推進
・ジビエの活用
・日本獣医生命科学大学との連携
・獣類被害対策の管理手法の開発など



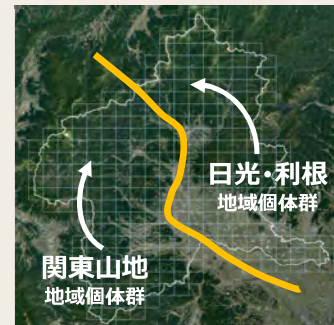
鳥獣保護管理法に基づく計画制度



ニホンジカ適正管理計画 (R2.4~R7.3末)

計画の目的

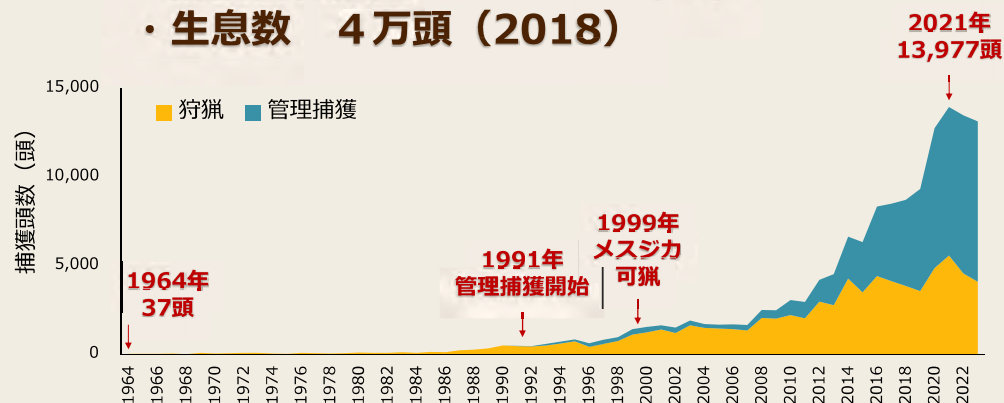
科学的・計画的な管理により、ニホンジカの生息密度を低減させる「個体群管理等」を実施することで、農林業被害の減少及び自然生態系の保全を図りつつ、地域個体群の健全な維持を図ること



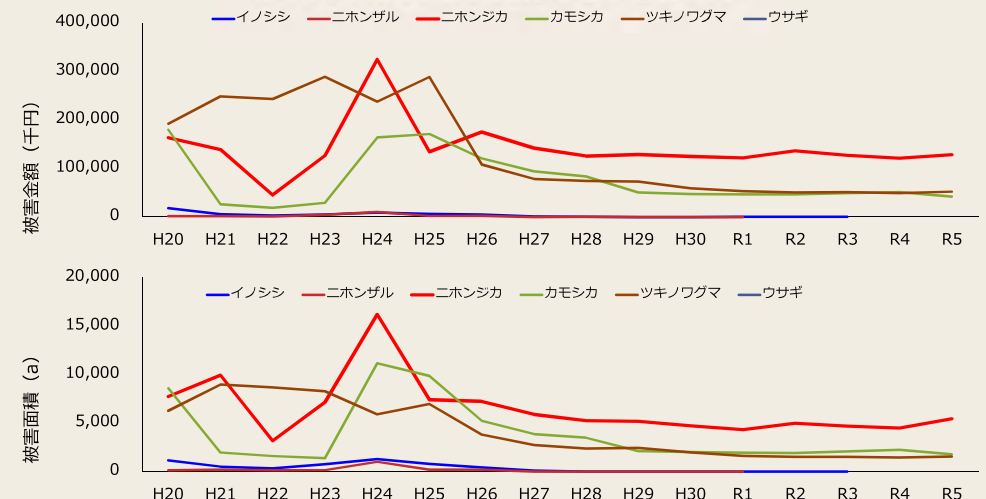
- ・ 生息数 4万頭 (2018)
- ・ 捕獲目標頭数 1万5千頭/年
- ・ 農業被害額 5千万円以下
林業被害額 1億円以下

ニホンジカ捕獲数の推移

- ・ 捕獲目標頭数 1万5千頭/年
- ・ 生息数 4万頭 (2018)



林業被害額及び面積



劣化する林内植生



集積するシカ糞

ミズキへの食害

ウラジロモミへの食害

エゴノキへの食害



尾瀬ヶ原の食害



間伐施業後の植生



スギ 5 1 年生, 間伐実施 H17
撮影: H22.6.22
林床は明るく植生の回復が期待されるが、シカの不嗜好性種に限られる

※単一種（マツカゼソウ）が繁茂



森林（人工林） 獣害の種類と特徴

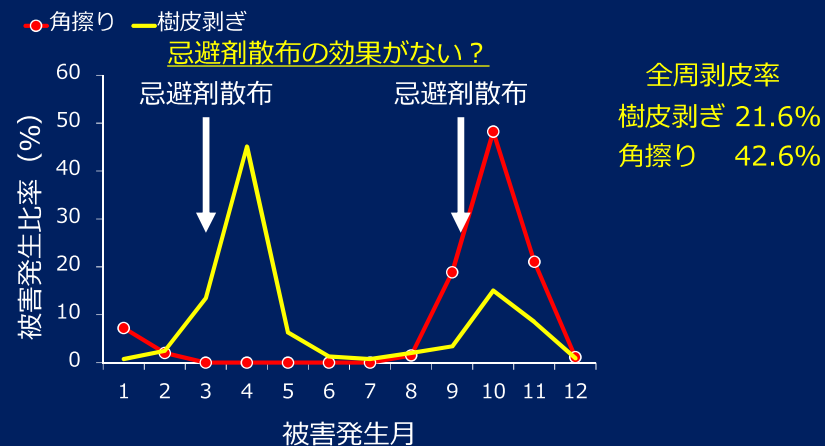
樹皮剥ぎ



角こすり



幼齢林被害の発生月



忌避剤がなぜ効かないの？

- ・忌避成分は味覚刺激のため口に入れる必要あり
- 角こすりには効果が無い
- 樹皮剥ぎへの効果は？



忌避剤の付着した外樹皮は食べず



<ノウサギ切断>



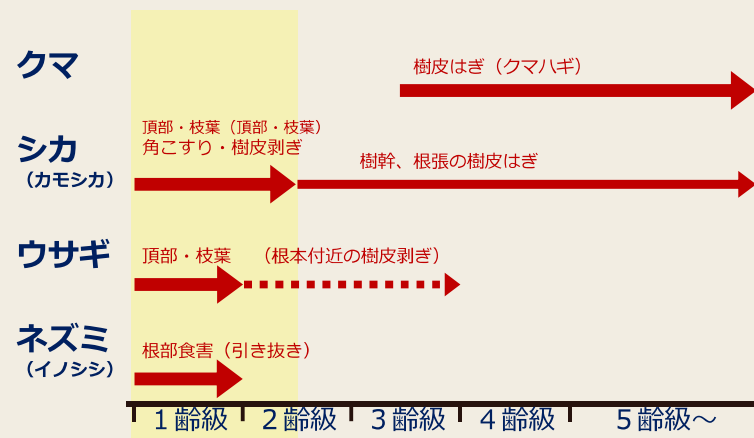
<イノシシ引き抜き>



<ネズミ根部食害>



森林獣害の発生推移



<単木保護> 700円/本前後 <薬剤散布> 100円本/4年間



<柵ゾーン> 500円/本前後



防除柵を破損する獣類



ステンレスワイヤー入り獣害ネット



群馬県林業試験場の開発した単木柵



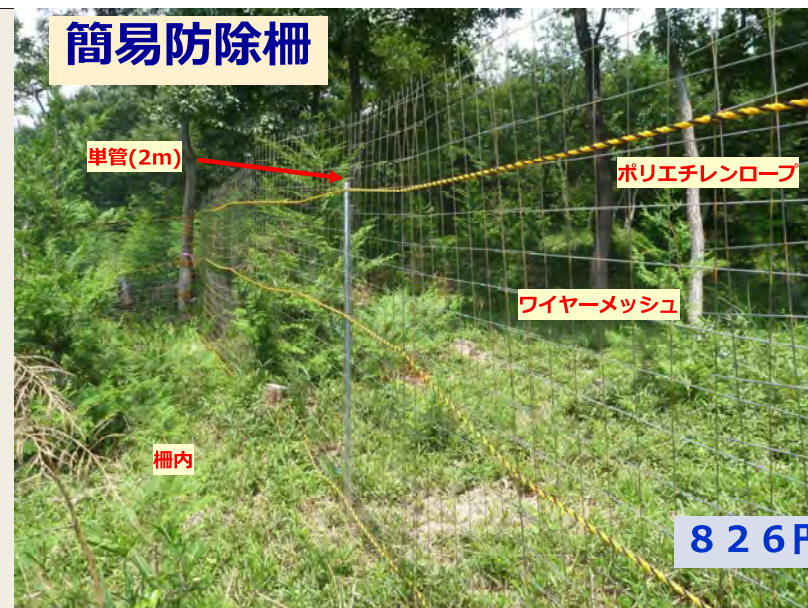
林業試験場成果報告「獣害から森を守る・新しいアプローチ」
| 林業試験場 | 群馬県 - YouTube



532円/本



簡易防除柵



826円/m



※柵外は不嗜好性が残る
(シダ類、バイソウなど)

柵内で咲くレンゲショウマ



※柵内は良好に生育

鳥獣保護管理法に基づく計画制度

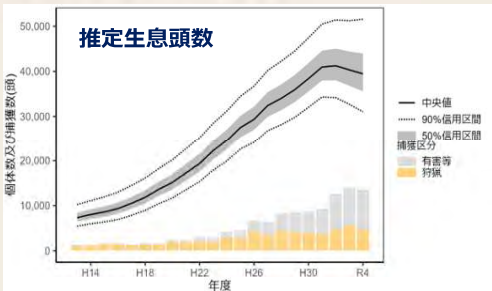


個体群管理のためのモニタリング項目

・捕獲目標頭数 1万5千頭／年 ・生息数 4万頭（2018）

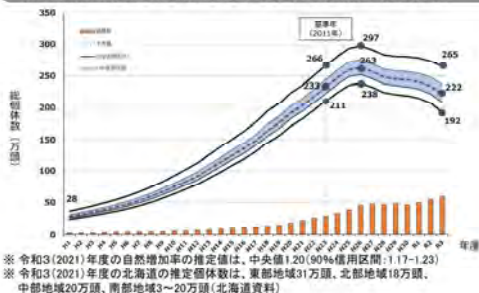
（階層ベイズモデル）

SPUE、CPUE、糞塊調査、
REST、捕獲数・・・

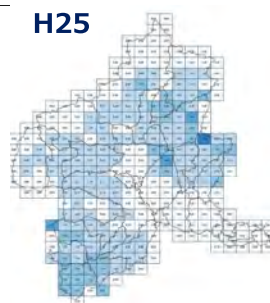


1. ニホンジカ(本州以南)の個体数推定の結果

- 令和3（2021）年度末におけるニホンジカ(本州以南)の推定個体数は、中央値で約222万頭（90%信用区間：約192～265万頭）となりました。
- ニホンジカの個体数は、減少傾向が続いていると考えられるものの、依然として高い水準にあるため、引き続き捕獲強化を進めていく必要があると考えられます。



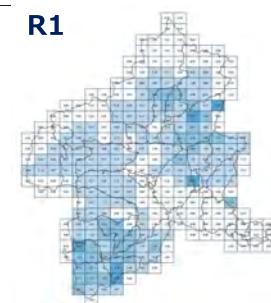
H25



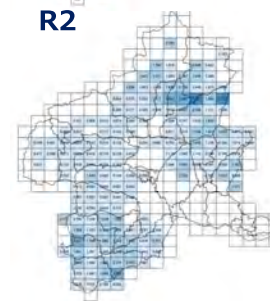
H30



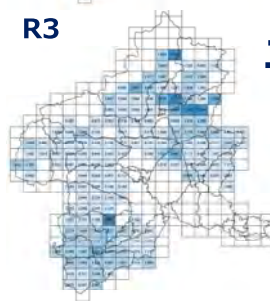
R1



R2

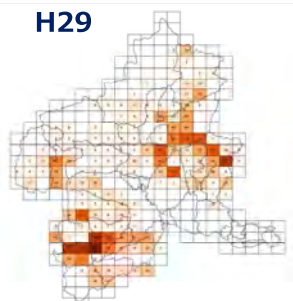


R3

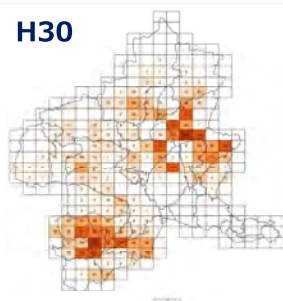


ニホンジカSPUE推移
→狩猟データを活用

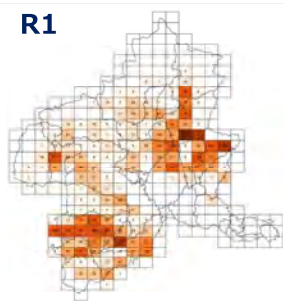
H29



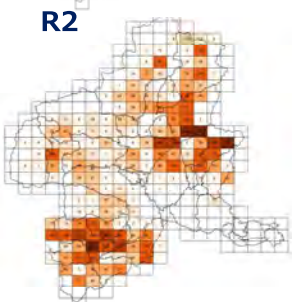
H30



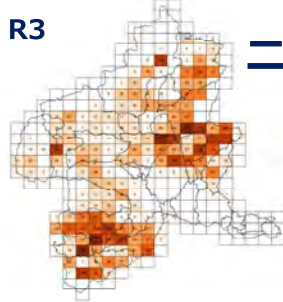
R1



R2



R3



ニホンジカ捕獲数推移

5 kmメッシュ別の糞塊密度推移



H25年度



H26年度



H27年度



H28年度



H29年度



H30年度



R元年度



R2年度



R3年度



R4年度

糞塊密度から推定したニホンジカ生息密度

頭/km²

個体群管理上のモニタリングの重要性

- ・変動要因のコアとなる情報を得る
- ・データは長期継続取得することで重要性が増す
- ・新たな手法は積極的に取り入れる
- ・データを基に科学的に評価して施策に反映する

農業被害対策

鳥獣被害対策支援センターは全てに関係

加害動物

発生場所

被害対策

(防除)

(捕獲)

(環境)

クマ
シカ
イノシシ
カモシカ
サル
アライグマ
ハクビシン
キツネ
タヌキ
鳥類
カワウ...

農地
人工林
自然植生
住居地域

電気柵
防護柵
単木柵
薬剤散布
追い払い

・有害捕獲
・狩猟捕獲
銃猟 わな猟
くくりわな
箱わな
巻き狩り
忍び猟

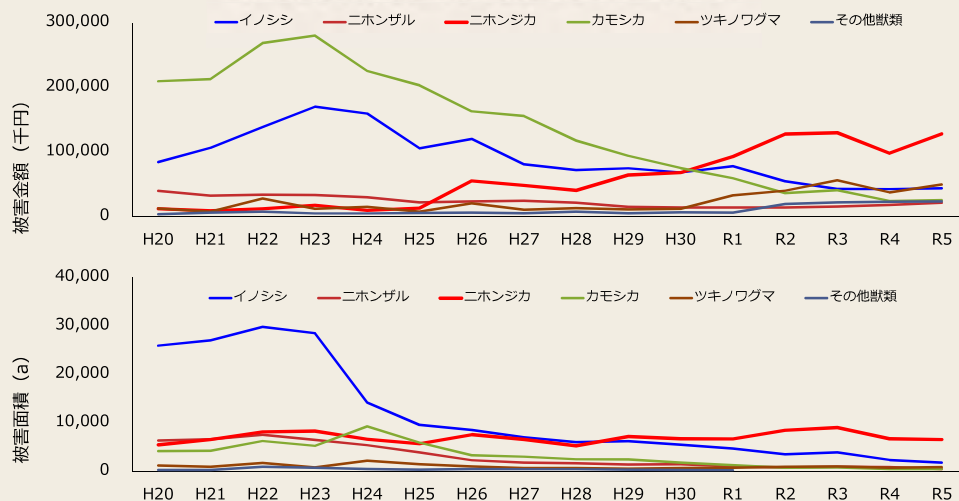
緩衝帯整備
下刈り
誘引物除去
生ゴミ
放置果樹

自助

共助

公助

農業被害額及び面積



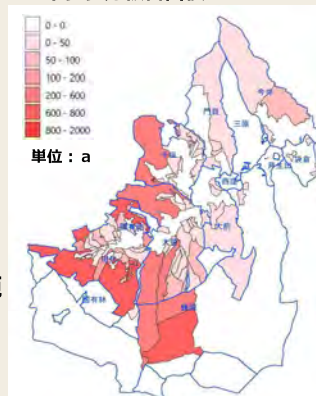
婦恋村の広域捕獲対策

- ・婦恋村の農作物被害は県被害額の半分を占める
- ・ニホンジカ被害が急激に増加
- ・被害額の削減が急務

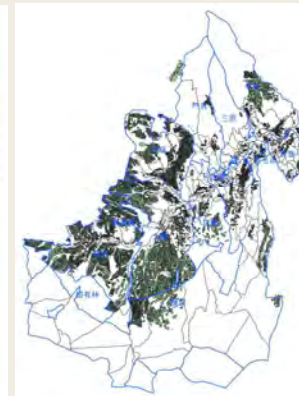


- ・関係機関により意見交換実施
- ・GPS首輪による行動圏調査、捕獲適地調査、植生調査実施
- ・広域捕獲計画を作成
- ・長野県と連携した広域捕獲実施
- 農水省交付金を活用 (鳥獣被害防止総合対策交付金)

ニホンジカ被害面積 H26～R2



婦恋村字図 (筆: 耕作地)



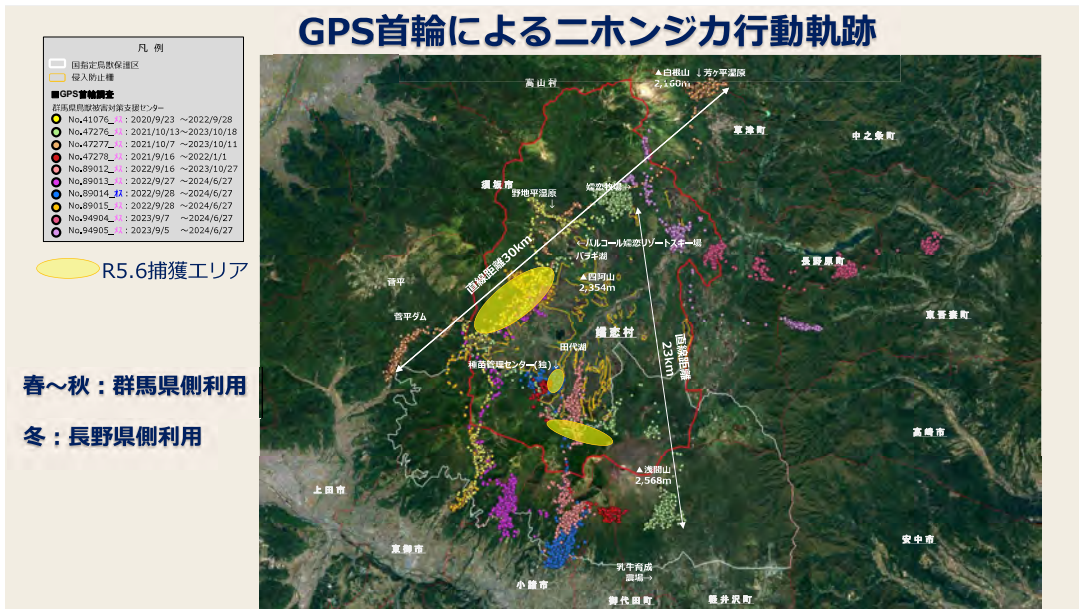


総延長300kmを越える広域柵を設置

広域柵

柵の破損は避けられない

各圃場は電気柵で防除



広域捕獲の方法

□捕獲範囲

- ・広域フェンスの外側（山側）を中心に捕獲
- ・フェンス内側（畑）は通常の有害捕獲を継続して実施

□捕獲方法

- ・婦恋村鳥獣被害対策実施隊員等から捕獲協力者を募り実施
- ・くくりわな（クマ錯誤捕獲防止）を使用
- ・捕獲通報装置、捕獲報告アプリで捕獲作業を効率化

くくりわな
上蓋によりクマ錯誤捕獲を防止

ワナの上を通過する親子クマ

ワナ位置

ワナ位置

捕獲通報装置
(県林業試験場考案)
LPWA (LTE-M) でメール通知

IoTカメラ
一部わなに設置

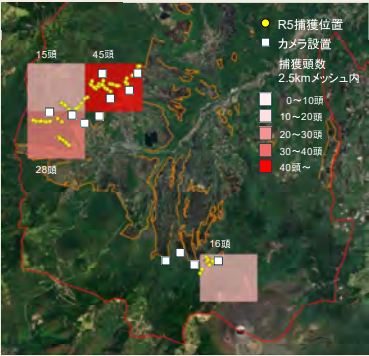
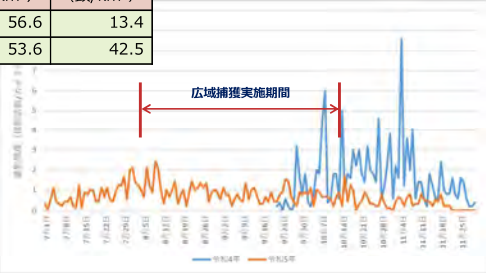
捕獲報告アプリ

広域捕獲の実施結果

- R5実施結果
- ・捕獲期間8月3日～10月14日 捕獲従事者8名
 - ・捕獲効率の平均は0.024頭／基日、主な捕獲者は3名
 - ・捕獲数ニホンジカ95頭（計画100頭）、イノシシ9頭（計画25頭）

- 赤外線カメラによる捕獲効果の評価
- ・9月-12月（R4,5）のREM法密度を比較、明確な密度低下を確認
 - ・A地区（R5）の撮影頻度は9月以降低下

地 区	R4密度 (頭/km ²)	R5密度 (頭/km ²)
A	56.6	13.4
B	53.6	42.5



令和5年度広域捕獲調査業務委託報告書 (株) ROOTS